



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

3月号—No.334
2023.2.25
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【チョコレート】チョコレートのような暗い茶色。

チョコレートはアオイ科の常緑樹であるカカオの種子を主原料にしてつくられるお馴染みのスイーツ。ちなみにカカオの漢字表記は加加阿、学名はTheobroma cacao(Theobromaはギリシャ語で神の食べ物のこと)。日本に輸入されるカカオの約8割はガーナからの輸入だが、加賀市で温泉の排熱を利用したカカオの森づくりも始まっており、国産カカオのチョコレートを味わえる日も近い？

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

令和4年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」表彰式
令和3・4年度「市町村立美術館活性化事業」報告

財団からのお知らせ..... 4

ステージラボ札幌セッション開催のお知らせ / 「公共ホール求人情報」
掲載申し込み方法 / 2023・2024年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」
登録アーティスト公開プレゼンテーション開催 / 「第23回地域伝統芸能まつり」
テレビ放送のお知らせ / 「特別寄稿 ビューポイント view point」No.10掲載について

今月の情報..... 6

地域通信 / アーツセンター情報

今月のレポート..... 12

大分県日田市 バトリア日田
オリジナル日田ミュージック「どんどん日田どん！」

令和4年度
地域創造大賞
(総務大臣賞)
表彰式

令和3・4年度
市町村立美術館
活性化事業

●令和4年度地域創造大賞(総務大臣賞)受賞施設

- 安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄[北海道美唄市]
- 府中市立府中の森芸術劇場[東京都府中市]
- 神奈川県立青少年センター[神奈川県]
- 浜松市楽器博物館[静岡県浜松市]
- はつかいち文化ホール(ウッドワンさくらびあ)[広島県廿日市市]

●地域創造大賞審査委員会

(※委員長、委員長代理以下、五十音順)

◎委員長

- 田村孝子[文化ジャーナリスト、前公益社団法人全国公立文化施設協会 副会長]

◎委員長代理

- 吉本光宏[株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事(社会研究部 芸術文化プロジェクト室長兼務)]

◎委員

- 熊倉純子[東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科長 教授]
- 小林真理[東京大学大学院人文社会系研究科 教授]
- 坪池栄子[株式会社文化科学研究所 編集プロデューサー]
- 仲道郁代[ピアニスト]
- 柳沢秀行[公益財団法人大原美術館 学芸統括]
- 山本信一郎[一般財団法人地域創造 理事長]

●地域創造大賞に関する問い合わせ

総務部 高野
Tel. 03-5573-4184

●令和4年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」表彰式



左: 的井宏樹総務省大臣官房審議官による受賞施設への表彰状・楯の授与/右: 受賞施設関係者、審査委員との記念撮影

令和4年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」の表彰式が1月20日、グランドアーク半蔵門で行われました。この賞は、地域創造設立10周年を記念して、地域における文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰することを目的に創設され、これまでに133施設が表彰されています。19回目となる今年度は5施設の受賞が決定し、的井宏樹総務省大臣官房審議官のご臨席の下、表彰式が行われました。

主催者である地域創造の山本信一郎理事長の挨拶、受賞施設の多彩な取り組みの映像紹介に続き、的井審議官から表彰状・楯が授与されました。「(受賞施設の)皆様の活動は、活力ある地域社会の実現に大きく寄与するものであり、今後とも、全国のモデルとして、地域の暮らしをより心豊かなものにする文化・芸術の振興に、お力添えを賜りますようお願い申し上げます」と松本剛明総務大臣の祝辞が的井審議官より代読されました。

受賞施設を代表し、「自然と彫刻が調和した芸術広場」により誇りを醸成した「安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄」で受賞をした美唄市の板東知文市長より、「本市と彫刻家、指定管理者の三者が連携協力し、空間の維持に取り組んでまいりましたが、当館は昨年、開設30年を迎えることとなりました。この30年を機に、市民の財産としての公共空間を、芸術空間としてだけではなく、時代が求める社会的役割を担うフィールドとして多様な形で活かし、広く発信していくことが、年齢や立場を超えた地域

の多くの人たちの『誇り』を育む確かな『道のり』と考え、思い新たに次なるステップへ歩みを進めていきたいと考えているところであります。この度の受賞は、そうした方向性にまい進したいと考えている私どもにとりまして、大きなお力添えをいただいたと考えております。本日の受賞を励みに、本市と認定NPO法人アルテピアッツァびばいは、一層連携協力しながら、この空間のもつ意味と役割を深めていく取り組みを積み重ねてまいります」と、今後への決意を込めた謝辞をいただきました。

審査委員会の田村孝子委員長からは、受賞施設への講評とともに、「(今回の受賞は)設置者である自治体と、施設の運営に携わる皆様が、いつ終わるかわからないコロナ禍にもかかわらず、それぞれの施設の役割をきちんととらえ、ブレずに運営していらっしゃる結果だと思えます。最後に皆様へお願いがあります。大切だと言われ、取り組みは盛んに行われていますが、日本で少し遅れているものがあります。それは、未来を担う子どもたちのための『上質な事業』です。今回の受賞をきっかけに、皆様のご活躍で、それぞれの施設が子どもたちの宝、そして地域の宝となることを心から願っております」と今後への期待が寄せられました。

今回の賞は、受賞された施設のみならず、日頃からそれらの施設を支え、文化・芸術による地域づくりに参加していただいている地域の皆様のご協力に対する感謝を込めて贈られるものです。心よりお祝い申し上げますとともに、今後のさらなるご活躍を期待しています。

▼今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

●令和3・4年度「市町村立美術館活性化事業」報告



左:「土門拳一肉眼を超えたレンズ」展示の様子(安来市加納美術館での対話型鑑賞会「アートdeトーク」)右:八幡浜市美術館のワークショップ「ピンホールカメラを作って撮ってみよう」には小学3年生以上の子どもたちが参加

市町村立美術館活性化事業(以下、市美活)の巡回展「土門拳記念館コレクション展 土門拳一肉眼を超えたレンズ」が、安曇野市豊科近代美術館、直方市美術館(直方谷尾美術館)、安来市加納美術館、八幡浜市美術館にて開催されました。

本展では、土門拳記念館にご協力をいただき、写真界に大きな影響を与えたライフワーク『古寺巡礼』『風貌』をはじめ、巡回館の地域性に合わせた作品を選び(安曇野市豊科近代美術館「荻原守衛の彫刻」シリーズ、直方谷尾美術館「筑豊のこどもたち」シリーズなど)、土門拳の代表作を紹介しました。地域にゆかりのある作品を展示することで、被写体となった人物の知り合いが来館するなど、地元の歴史を掘り起こす契機にもなったようです。

各開催館では、展覧会のほかにワークショップ等の地域交流プログラムも実施しましたので、一部をご紹介します。全館共通のプログラムとしては、本巡回展の実施にあたりご協力をいただいた土門拳記念館の学芸員・田中耕太郎さん、カタログ総論執筆の横浜美術館学芸員・大澤紗蓉子さんによる講演会を実施しました。この講演会は、特に写真愛好家や地元の写真家などが多く参加し、終了後に参加者から質問が出るなど深い学びの場として活用されました。

ほかにも、写真に馴染みのない人や子どもも楽しく参加でき、展覧会の内容理解にも繋が

るワークショップやギャラリートークを各会場にて行いました。なかでも、地元写真家を講師に招いて地元の風景をカメラで切り取るワークショップは、各会場で人気の地域交流プログラムとなったようです。安曇野市豊科近代美術館と八幡浜市美術館では、デジタルカメラや携帯のカメラが主流となった今、カメラの基本構造をわかりやすく学べる「カメラ・オブ・スキュラ」のワークショップも実施しました。

市美活は2カ年をかけて準備から開催までを行う事業で、地域創造の提示した企画案について、貸出協力館アドバイザーの助言のもとに、開催各館の学芸員が学芸会議で議論を重ねながら具体化していきます。広報や図録の作成等の展覧会実施に係る業務についても、開催館同士で分担しながら進めていくことで他館と連携し、ノウハウを共有することができ、単館ではなかなか取り組みづらいことにもチャレンジしやすい環境となっています。巡回展に参加したことのない学芸員のスキルアップとしてもご活用いただける事業です。

令和4・5年度の市美活では、第23回共同巡回展として「福岡アジア美術館所蔵『うのおうアジア 近代アジアの芸術、その多様性一』」を、はつかいち美術ギャラリー、四日市市文化会館、上田市立美術館、小金井市立はげの森美術館にて開催します。また、令和6・7年度市美活の参加館募集は、6月頃を予定しています。



上:ギャラリートークの様子(八幡浜市美術館)/下:ワークショップ「ピンホールカメラを作って撮ってみよう」(八幡浜市美術館)

●第22回共同巡回展「土門拳記念館コレクション展 土門拳一肉眼を超えたレンズ」

[主催]第22回共同巡回展実行委員会ほか
[特別協力]土門拳記念館

[会場・会期]

●安曇野市豊科近代美術館(長野県安曇野市) / 2022年5月29日～7月10日

●直方市美術館(直方谷尾美術館)(福岡県直方市) / 7月17日～9月4日

●安来市加納美術館(鳥根県安来市) / 9月10日～10月24日

●八幡浜市美術館(愛媛県八幡浜市) / 10月29日～12月11日

[助成](一財)地域創造

[アドバイザー]藤森武(土門拳記念館学芸担当理事)

[開催協力館担当学芸員]田中耕太郎(土門拳記念館学芸員)

●公立美術館活性化事業に関する問い合わせ

総務部 高野

Tel. 03-5573-4184

財団からのお知らせ

●ステージラボ札幌セッション開催のお知らせ

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象として、事業の企画制作、施設運営、地域との関わりなど、ホール、劇場等のソフト面の運営に欠くことのできない要素を体得するため、ワークショップ等体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数ゼミ形式の実践的な研修事業です。令和5年度の前期セッションは、札幌市民交流プラザにて3コースで開催します。

詳細や参加者募集は、次号(4月号)の地域創造レターおよび当財団ホームページでお知らせします。

◎ステージラボ札幌セッション概要

[日程] 2023年7月4日(火)～7日(金)

※公立ホール・劇場マネージャーコースのみ7月4日(火)～6日(木)

[会場] 札幌市民交流プラザ

(札幌市中央区北1条西1丁目)

◎開講コース(予定)

【ホール入門コース】

●対象となる職員の目安

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場において業務経験年数1年半未満の方。

【自主事業コース】

●対象となる職員の目安

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2～3年程度の方。

【公立ホール・劇場マネージャーコース】

●対象となる職員の目安

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場において管理職程度の職責をもつ方。

※新型コロナウイルス感染症への対策を講じた上で実施いたします。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、開催内容等が変更となる場合がございます。

●「公共ホール求人情報」掲載お申し込み方法

登録フォームにアクセスいただき、必要事項を直接ご入力ください。送信を行うには、フォーム最下部の投稿用認証キー欄へID、パスワードの入力が必要です。

※スパム対策のため、登録フォームURLおよびログインID、パスワードはホームページ上に記載していません。地域創造レターをご確認いただくか、地域創造までお問い合わせください。

- 1 求人情報登録フォームへアクセス。
- 2 登録フォームに沿って、必要事項を入力してください。
- 3 フォームの最下部にある投稿用認証キー欄にID、パスワードを入力。
- 4 登録を完了すると自動で登録完了をお知らせするメールがお手元に届きます。
- 5 地域創造が内容を確認後、ホームページに情報を公開します。公開完了はメールでお知らせします。登録から情報公開までは2～3日程度お時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

※情報を修正する場合には、「修正フォーム」へアクセスし、投稿用認証キー欄に登録時に使用したメールアドレス・ID・パスワードを、No.入力欄に公開完了のメールに記載した登録No.をご入力の上、「編集する」をクリックしてください。フォームから情報を修正し登録を完了すると、自動で登録完了をお知らせするメールが届きます。新規登録時と同じく、情報公開までは2～3日程度お時間をいただく場合がありますのでご了承ください。

●「ステージラボ」に関する問い合わせ
芸術環境部 藤原・三田
Tel. 03-5573-4183

●「公共ホール求人情報」に関する問い合わせ
芸術環境部 人材育成担当
jinzai@jafra.or.jp

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●2023・2024年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」登録アーティスト公開プレゼンテーション開催

「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」は、全国の公共ホール等との共催により、地域の皆様との交流を図る地域交流プログラムと本格的で親しみやすいホールコンサートを共同でつくり上げる事業です。この度、新しく当事業に登録が決まった7組のアーティストによる公開プレゼンテーションを開催します。このプレゼンテーションは、令和5年度のおんかつ実施団体を対象に行うものですが、今後おんかつの実施を検討されている公共ホール職員の方など、当事業に関心のある方もご覧いただけます。

アーティストが地域交流プログラムやコンサートにどのように臨むのか知ることができる絶好の機会です。ぜひご応募ください。

◎おんかつ公開プレゼンテーション概要

[日程] 2023年4月18日(火) 15:00開演

[会場] トッパンホール

(東京都文京区水道1-3-3)

[出演] 2023・2024年度登録アーティスト

・今田篤(ピアノ)

- ・水谷桃子(ピアノ)
- ・上田純子(ソプラノ)
- ・西村悟(テノール)
- ・閑喜弦介(ギター)
- ・カメハ(パーカッションデュオ)
- ・Modétro Saxophone Ensemble(サクソフォン四重奏)

[内容] 各組25分程度のプレゼンテーション

[参加申し込み方法]

当財団ホームページの参加申込フォームよりお申し込みください

https://www.jafra.or.jp/event-request/onkatsu_presen/

[募集期間] 2023年3月1日(水)～4月10日(月)

※定員に達し次第、申し込み終了



今年度のプレゼンの様子

●「第23回地域伝統芸能まつり」がNHKで放送されます

2月19日(日)にNHKホールで開催された「地域伝統芸能まつり」がテレビ放送されます。今年度は「息吹(いぶき)」をテーマに、日本各地域の伝統芸能9演目と、古典芸能1演目が披露されます。ぜひご覧ください。

◎放送予定日

2023年3月5日(日) 14:30～16:00

NHK Eテレ「まつりの響き ～第23回地域伝統芸能まつり」(NHKプラスで見逃し配信あり)

●「特別寄稿 ビューポイント view point」No.10 掲載について

地域創造ホームページ限定で、有識者やキーパーソンから文化芸術および公立文化施設等におけるチャレンジな取り組みを寄稿していただくコーナー「特別寄稿 ビューポイント view point」。

10回目となる今回は東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授の熊倉純子氏にご寄稿い

ただきました(1月31日更新)。

<https://www.jafra.or.jp/library/other/column10.html>

◎問い合わせ

芸術環境部 藤原
Tel. 03-5573-4183



●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ
芸術環境部 永田・仕田
Tel. 03-5573-4064
onkatsu@jafra.or.jp

●「地域伝統芸能まつり」に関する問い合わせ
総務部 河野
Tel. 03-5573-4056

地域通信

●掲載情報について

最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 梅村・矢嶋

●2023年5月号情報締切

2023年3月24日(金)

●2023年5月号掲載対象情報

2023年5月～7月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●札幌市

札幌文化芸術劇場 hitaru
〒060-0001 札幌市中央区北1条西1丁目
Tel. 011-271-1950 劇場事業課
<https://www.sapporo-community-plaza.jp/>

hitaru creation Creative Art Mix RE:BORN

札幌で活躍するアーティストと劇場が連携し、ゼロからつくり上げる新感覚パフォーミングアーツ。ラヴェル『亡き王女のためのパヴァーヌ』やヴェルディ『レクイエム』などクラシックの名曲をR&B・ジャズとストリートダンスのコラボレーションで表現する新感覚音楽と、さまざまなダンスが目くるめくコラボを繰り広げる。4月からは本編と特典映像を視聴できるオンライン配信も実施する。

[日程]3月11日、12日

[会場]クリエイティブスタジオ
(札幌市民交流プラザ3F)

●北海道北見市

北網圏北見文化センター
〒090-0015 北見市公園町1
Tel. 0157-23-6700 松浦葵
<https://hokumouken.com/>

描かれた“北”～北海道立近代美術館コレクションから～

本間莞彩、木田金次郎、本間紹夫、小川原脩、難波田龍起など北海道の美術をけん引してきた画家たちは、“北”の姿をバリエーション豊かに表現してきた。本展では北海道立近代美術館の所蔵品から“北”をキーワードとして選んだ43点を、当館が所蔵する関連作家の作品10点と併せて展示する。道内の美術館等が連携し、各々の所蔵品を相互に紹介する「アートギャラリー北海道」事業の一環として開催。

[日程]1月14日～3月12日

[会場]北網圏北見文化センター

●仙台市

仙台市市民文化事業団
〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5
Tel. 022-276-2110 内山・大久保・大友
<https://www.sendaiycc.jp/>

第2回 日立システムズホール仙台 パフォーミングフェスティバル

コロナ禍により実演芸術活動が困難になるなか、地域のホールとして苦境を一緒に乗り越えたいという思いで始まったフェスティバル。仙台を拠点に活動する和太鼓集団「Atoa」、劇団「短距離男道ミサイル」の出演や市民向けダンスワークショップの作品発表、来場者をつくるオリジナルの体操など、地域で頑張るアーティストの活動にふれ、出演者と来場者の垣根を越えて交流する。

[日程]3月20日、21日

[会場]日立システムズホール仙台

●福島県いわき市

いわき芸術文化交流館アリオス
〒970-8026 いわき市平字三崎1-6
Tel. 0246-22-8111 萩原宏紀
<https://iwaki-alios.jp/>

リージョナル・シアター2022

いわきアリオス演劇部U30

『わが星』

30歳以下の若者たちと、プロの劇作家・演出家が演劇を創作する「いわきアリオス演劇部U30」。今年度は劇団「ままごと」の柴幸男を顧問に迎え、15～30歳までの部員28人と共に自身の代表作『わが星』をいわきオリジナルとし



いわきアリオス演劇部U30『どこまでも世界 いわきver.』(2022年1月/演出:小野寺修二) 撮影:鈴木積蔵

て創作する。意見を出し合いながら部員全員で演出するなど、若い表現者たちに舞台を「つくる」体験をしてもらうことで、次世代の芸術文化を担う人材の発掘・育成を目指す。

[日程]3月18日、19日

[会場]いわき芸術文化交流館アリオス

●福島県福島市

福島県立美術館
〒960-8003 福島市森合字西養山1
Tel. 024-531-5511 橋本恵里
<https://art-museum.fcs.ed.jp>

福島アートアニュアル2023 境界を跨ぐー村越としや・根本裕子

開館以来、県出身・ゆかりのアーティストを紹介する事業を続けてきた同館が、2021年に立ち上げた若手アーティストを紹介するシリーズ企画。福島県須賀川市に生まれ故郷の風景を被写体としたモノクロームの写真を制作する村越としや(写真家)と、須賀川市在住で陶芸のてびねりの手法で近年野良犬を制作している根本裕子(陶芸家)を紹介する。

[日程]1月28日～3月5日

[会場]福島県立美術館



根本裕子《野良犬》

関東

●群馬県高崎市

群馬県立近代美術館
〒370-1293 高崎市綿貫町992-1

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

Tel. 027-346-5560 田中龍也
<https://mmag.pref.gunma.jp/>

アートのための場所づくり 1970年代から90年代の群馬に おけるアートスペース

1970～90年代に群馬県内で活動したアートスペースの歴史を振り返り、県内のアートシーンに果たした役割を検証する展覧会。明治創業の書店「煥乎堂」は、前橋の店舗内で古くから美術展を開催し、新店舗にギャラリー専用スペースを設けると、展示のほかコンサートや芸文講座も開催し、文化サロンとして賑わった。本展では、この「煥乎堂ギャラリー」を中心に5つのアートスペースを紹介し、そこに集った作家の作品も展示する。

[日程] 1月21日～4月9日

[会場] 群馬県立近代美術館

●さいたま市

埼玉県芸術文化振興財団
〒330-8518 さいたま市浦和区高砂3-1-4

Tel. 048-858-5506 関下景子
<https://www.saf.or.jp/>

彩の国さいたま芸術劇場ダンス・プログラム 子どもと大人のためのダンス 日本昔ばなしのダンス

日本昔ばなしを元に現代の振付家が独自の視点でダンス創作に取り組む企画として2006年にスタート。幅広い世代から支持を集め、これまで日本各地でのツアー公演のほか、2016年にはニューヨークのジャパン・ソサエティーから招聘され現地でも好評を博した。今回は振付家でダンサーの川村美紀子による『じごくのあばれもの』とブッシュマン主宰黒須育海による『ごんぞうむし』の新作2作品を上演する。

[日程] 3月25日、26日

[会場] 埼玉会館

●埼玉県川口市

(公財)川口総合文化センター

〒332-0015 川口市川口3-1-1
Tel. 048-258-2000 柴田彰久
<https://www.lilia.or.jp/>

リア・ゲームミュージック・セ レクションvol.1 feat.伊藤賢治

数々の名作を彩ったゲーム音楽のクリエイターとして知られる作曲家・ピアニストの伊藤賢治に焦点を当てたコンサート。伊藤を中心としたアコースティックなアンサンブルで、『ロマンシングサ・ガ』や『パズル&ドラゴンズ』をはじめ、彼の礎となった『アヴェ・マリア』や『リベルタンゴ』といった名曲など、さまざまな楽曲をお贈りする。

[日程] 3月11日

[会場] 川口リア・音楽ホール

●東京都府中市

府中市美術館
〒183-0001 府中市浅間町1-3
(都立府中の森公園内)

Tel. 042-336-3371 金子信久
<https://www.city.fuchu.tokyo.jp/art/>

春の江戸絵画まつり 江戸絵画お絵かき教室

これまで「美術史」の視点から、さまざまな切り口で江戸時代の絵画を紹介してきた「春の江戸絵画まつり」。20回目を迎える今回は、初めての試みとして“描く”ということに着目。江戸時代の画家に入門したつもりで、画材や技法の基礎知識、描き方のコツなどを見ていくことで、さまざまな側面から江戸絵画の魅力に迫る。会期中にはトークイベントや揉み紙体験ワークショップなども開催。

[日程] 3月11日～5月7日

[会場] 府中市美術館

●横浜市

神奈川県立音楽堂
〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘9-2

Tel. 045-263-2567 日下郁

<https://www.kanagawa-ongakudo.com/>

子どもと大人の音楽堂(大人編) 音楽堂のピクニック

前川國男の名建築(神奈川県指定重要文化財)としても知られる音楽堂の建物全体を使って、丸一日過ごせる「子どもと大人の音楽堂」シリーズ。気鋭の音楽プロデューサーKenji "Noiz" Nakamuraと美術作家・小金沢健人の演出の下、“隣の宇宙”をキーワードに、現代美術家や能楽師、チェリスト、ガムラン奏者、創作楽器奏者たちが音色の宇宙旅行のような時間を創出する。

[日程] 3月4日

[会場] 神奈川県立音楽堂

●神奈川県大和市

やまと芸術文化ホール
〒242-0016 大和市大和南1-8-1

Tel. 046-263-3806 石井沙知
<https://www.yamato-bunka.jp/>

みんなの音楽会vol.3 鶴木絵里 &中川賢一 親子で楽しむバリア フリーコンサート・大人が楽しむ バリアフリーコンサート

「誰もが一緒に楽しめ、理解しあおう」ことをテーマにした音楽会シリーズ。今回は、童謡や手遊び歌などのプログラムを揃えた親子向けコンサート(午前)と、ゆったりと音楽を堪能する大人向けコンサート(午後)の2公演で開催。点字プログラム配布や手話通訳、難聴者支援システムの貸し出しなどさまざまな鑑賞サポートを整え、障がいがある人も、子どもも大人もみんなで楽しめるコンサートを目指す。

[日程] 3月18日

[会場] 大和市文化創造拠点シ
ウス

●神奈川県小田原市

小田原三の丸ホール
〒250-0012 小田原市本町1-7-50

Tel. 0465-20-4152 森田百合花

<https://ooo-hall.jp/>

三の丸クラシックス2023春I 西由起子とミント・フレイバーズ —卒業のうた—

2021年に開館した小田原三の丸ホールが、地域ゆかりのアーティストと共に、ホールの魅力づくりやクラシック音楽の楽しさを伝えることを目的としたシリーズ企画の第4弾。今回は、同市出身のソプラノ歌手・西由起子が音楽監督となって立ち上げた女声アンサンブルのミント・フレイバーズによる公演。卒業ソングとしてよく知られる『旅立ちの日に』や『卒業写真』のほか、四季折々の日本の歌からクラシック音楽までをお届けする。

[日程] 3月4日

[会場] 小田原三の丸ホール

北陸・中部

●富山県入善町

入善町文化振興財団
〒939-0626 下新川郡入善町入膳3200

Tel. 0765-72-1105 澤田誠

<https://www.town.nyuzen.toyama.jp/gyosei/cosmo/>

小曾根真プロジェクト クラシック×ジャズ

世界で活躍するジャズピアニスト・小曾根真と、入善町出身で国内外の有名コンクールで数々の実績を有する若手ピアニストの中瀬智哉、若手ジャズトランペッターとして注目されている松井秀太郎の3名によるクラシックとジャズのコラボレーション。地域との交流のため、入善町内の小中学校に出演者がアウトリーチに行くプログラムも実施される。

[日程] 3月11日

[会場] 入善コスモホール

●山梨県甲府市

YCC県民文化ホール
〒400-0033 甲府市寿町26-1
Tel. 055-228-9131 加藤信一

<https://www.yamanashi-kbh.jp/>

やまなし未来劇場プロジェクト

地域活性化を目指し、文化を担う子どもたちを主役とした「やまなし未来劇場プロジェクト」。開催は2日間にわたり、YCC県民文化ホールを拠点に活動しているやまなしジュニアオーケストラや演劇サークルをはじめ、バレエや吹奏楽などに取り組む子どもたちが出演。一昨年にもゲストとして出演した、ヴァイオリニストの古澤巖をゲストに迎え、ジュニアオケが1年かけて練習を積んだブラームスの交響曲などの楽曲で再び共演を果たす。

[日程] 3月25日、26日

[会場] YCC県民文化ホール(山梨県立県民文化ホール)

●長野県上田市

サントミュージゼ(上田市交流文化芸術センター)

〒386-0025 上田市天神
3-15-15

Tel. 0268-27-2000 小岩井香織
<https://www.santomyuze.com/>

福川伸陽 ホルン・リサイタル

地域での活動実績のある「レジデント・アーティスト」を招聘し、学校へのアウトリーチ、公民館でのふれあいコンサート、ホールでのリサイタル公演を実施する。今年度はピアノ、ヴァイオリン、チェロ、ホルンの4名の奏者が招聘され、3月はホルンの福川伸陽によるリサイタルを開催。リサイタルの前には、演奏する楽曲について本人がその魅力を伝えるアナリーゼ・ワークショップも行われる。

[日程] 3月11日

[会場] サントミュージゼ(上田市交流文化芸術センター)小ホール

●岐阜県可児市

可児市文化芸術振興財団

〒509-0203 可児市下恵土
3433-139

Tel. 0754-60-3311 吉川真以

<https://www.kpac.or.jp/ala/>

大型市民参加事業 第12弾 市民ミュージカル『君といた夏～ スタンドバイミー可児～』

映画『スタンド・バイ・ミー』をモチーフに、2012年に初めて上演し、15年、18年と3年ごとに再演しているオリジナルの大型市民ミュージカル。新型コロナウイルス感染症の影響で21年から延期となっており、待望の開催となる。経験の有無を問わず、公募で集まった子どもから大人まで92人の出演者と、衣裳や小道具などで舞台を支える14人のスタッフ、合計104人の市民が可児の物語を紡ぐ。

[日程] 3月4日、5日

[会場] 可児市文化創造センターala

●名古屋市

港まちづくり協議会

〒455-0037 名古屋市港区名港1-19-23

Tel. 052-654-8911 青田・吉田
<https://www.mat-nagoya.jp/>

MAT Exhibition vol.12

長島有里枝「ケアの学校」

名古屋港エリアでまちづくりを推進する港まちづくり協議会が母体となり、現代美術の展示や空き家活用などさまざまなプロジェクトを展開するアートプログラム「Minatomachi Art Table, Nagoya (MAT, Nagoya)」。今回は写真やインスタレーション、文章などを通して、社会における周縁化されがちな人々や事象をテーマに、フェミニズム的な視座から創作を行う長島有里枝が港まちに滞在し、暗室作業などこれまで発表してきたメディアに加え、編み物や歌、ダンスなど新たな表現を行う。またそれらの活動を通して、地域や来場の人々と共に他者と自身のための「ケア」について考え、実践する。

[日程] 1月14日～3月18日

[会場] Minatomachi POTLUCK BUILDING

●愛知県豊橋市

豊橋文化振興財団

〒440-0887 豊橋市西小田原町123

Tel. 0532-39-3090 吉川剛史

<https://www.toyohashi-at.jp/>

市民と創造する演劇

『悲劇なんてまともじゃない』

□字ック主宰・劇作家・演出家の山田佳奈を上演台本・演出に迎え、シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』を原案にした書き下ろし作品をオーディションで選ばれた市民とつくり上げる。出演者のほかに、舞台美術や小道具、衣裳、広報宣伝の市民スタッフも公募し、演劇を体系的に学べる機会を提供する。視覚に障がいのある観客に向けた開演前の舞台説明会(リアルタイム音声ガイド付き)も実施される。

[日程] 3月4日、5日

[会場] 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT



令和2年度「市民と創造する演劇『甘い丘』(2021年3月) 撮影:伊藤華織

●愛知県知立市

ちりゅう芸術創造協会

〒472-0026 知立市上重原町間瀬口116

Tel. 0566-83-8100 堀川克磨

<https://patio-chiryu.com/>

知立の山車文楽新作プロジェクト

『おさき玉城恋の八橋』

知立の山車文楽とからくり(国指定重要無形民俗文化財)を活用した新作文楽『おさき玉城恋の八橋』全三段を3年かけてつくり

上げるプロジェクトの最終年。その昔、琉球国から知立にもたらされたと伝承される古楽器「長線」を題材に、改めて知立の歴史に目を向けると同時に、知立と沖繩の知られざる関係に歴史ロマンを交えつつ光を当てる作品となっている。

[日程] 3月11日、12日

[会場] パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)



『おさき玉城恋の八橋』中の巻「池鯉鮒の宿対面の段」(2022年3月)

近畿

●滋賀県大津市

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

〒520-0806 大津市打出浜15-1
Tel. 077-523-7133 村島美也子

<https://www.biwako-hall.or.jp/>

びわ湖ホールプロデュースオペラ

ワーグナー作曲『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』

開館時より毎年、国内外から第一線で活躍するキャスト・スタッフを集めて上演しているプログラム。3月をもって16年務めた芸術監督の任期を満了する沼尻竜典が最後に臨むのはワーグナーの唯一の喜劇。この上演をもって、ワーグナーの舞台作品のみを上演するパイロイト祝祭劇場で上演される10作品すべてをびわ湖ホールで上演することになる。また、1つの劇場で同じ指揮者が10作品すべてを指揮するのは日本初となる。

[日程] 3月2日、5日

[会場] 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

●京都市

京都府立府民ホール“アルティ”

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

〒602-0912 京都市上京区烏丸通一条下ル龍前町590-1
Tel. 075-441-1414 碓井智恵
<http://www.alti.org/>

創作音楽劇『遠くに街がみえる』

公募で集まった小学4年生から高校生までの22人を中心に、京都に縁のあるプロの音楽家や俳優、演奏家加わり、総勢38人が世代やジャンルの垣根を越えて挑むアルティ初の完全オリジナル音楽劇。とある街の学生寮での子どもたちの出会いと交流、成長が四季を通して描かれる。約半年間の稽古を通して、舞台の面白さ・厳しさを体験した出演者たちと珠玉の音楽家たちが紡ぐ音の物語をお届けする。

[日程] 3月18日、19日
[会場] 京都府立府民ホール“アルティ”



『遠くに街がみえる』稽古風景

●兵庫県伊丹市

AI・HALL (伊丹市立演劇ホール)
〒664-0846 伊丹市伊丹2-4-1
Tel. 072-782-2000 大道みなみ
<https://www.aihall.com/>

アイフェス!!2023 (AI・HALL中 学高校演劇フェスティバル)

市内の中学・高校演劇部が自信作を持ち寄って上演する演劇フェスティバル。劇団が劇場入りしてから行う過程を、プロのスタッフと共に実地体験できることが特徴で、制限の多い文化祭やコンクールとは違い、“劇場で公演を行う”という意識をもって取り組むことで、若い世代に芝居づくりの面白さを実感してもらおう。今年度は中学3校、高校4校が

出場し、関西で活躍する演劇人3名による講評も行われる。
[日程] 3月29日、30日
[会場] AI・HALL (伊丹市立演劇ホール)

●兵庫県宝塚市

宝塚市立文化芸術センター
〒665-0844 宝塚市武庫川町7-64
Tel. 0797-62-6800 後中友里恵
<https://takarazuka-arts-center.jp/>

開館3周年記念展

「オマージュ TAKARAZUKA — 春 プリマヴェーラ」

開館3周年を記念し、「宝塚をアートの新たな聖地に」という思いを込めて、宝塚へのオマージュ(捧げるもの)を形にして届ける現代アートの展覧会。「春・花・生命」をテーマに、全国から招待した若手からベテランまでの12名の作家の作品で構成し、コロナ禍に耐えて新しい世界を迎える日を夢みる今日に向けた内容とする。出展作家による「宝塚芸術創造都市計画」のシンポジウム(4月8日)も実施。

[日程] 4月7日～5月7日
[会場] 宝塚市立文化芸術センター

中国・四国

●鳥取県米子市

米子市公会堂
〒683-0812 米子市角盤町2-61
Tel. 0859-22-3236 藤山嗣郎
<http://www.yonagobunka.net/public-hall/>

現代邦楽の鬼才・船川利夫を 讃えて

地元出身の奏者らの顕彰事業を行ってきた米子市公会堂で、これまで県西部地区では単独公演の機会が少なかった米子市出身の邦楽作曲家・船川利夫(1931～2008)を紹介する。代表作『出雲路』などの演奏と、縁のある人を招いたトークセッションで船川の功績を振り返るとともに、邦楽

の魅力を探る。大西瑞香(箏)や古谷輝夫(尺八)ら地元や山陰を中心に活動する奏者が多く出演する。

[日程] 3月5日
[会場] 米子市公会堂

●島根県益田市

島根県立石見美術館
〒698-0022 益田市有明町5-15
Tel. 0856-31-1860 左近充直美
<https://www.grandtoit.jp/museum/>

特別展「受贈記念 彫刻家・澄川 喜一の仕事」

島根県出身の澄川喜一は、全国各地で約100点もの野外彫刻を手がけたほか、都市部の建築分野のデザインや環境造形の仕事を担い、高い評価を受けてきた。本展は、島根県に寄贈された彫刻作品から選りすぐりの約50点とともに、スケッチや図面、石膏原型なども展示。今まであまり表に出てこなかった「澄川の仕事」に着目し、澄川の生み出す造形の奥深さや郷土の作家についての理解を深める。

[日程] 2月4日～4月3日
[会場] 島根県立石見美術館

●岡山県倉敷市

倉敷市文化振興財団
〒710-0046 倉敷市中央1-18-1
Tel. 086-434-0505 郡奈津子
<https://arsk.jp/m-fes/>

第37回倉敷音楽祭

1987年に始まり、今回は4年ぶりの開催となる音楽祭。18のプログラムで構成され、「北日本」と「倉敷」の交流ステージでは、YOSAKOIソーラン(北海道)と東北の芸能(秋田県)、コンテンポラリーダンス(倉敷市)が披露される。市民参加公演では、西日本豪雨で被害を受けた真備町地区の復興を描く市民ミュージカル『日の記憶 ～夢ニモ思ワナイ～』や約90組の市民が演奏や歌を披露する町並みコンサ

ートを実施する。

[日程] 3月4日～21日
[会場] 倉敷市芸文館、マービーフれあいセンターほか

●広島市

広島市現代美術館
〒732-0815 広島市南区比治山公園1-1
Tel. 082-264-1121 国広・岩本
<https://www.hiroshima-moca.jp/renewal2023/>

リニューアルオープン記念特別展 Before/After

約2年3カ月の改修工事を経て開催する初の展覧会。美術館の建物を改修するという出来事を契機に生じる「前/後」をひとつの足がかりとして、さまざまな「まえ」と「あと」の現象や状況に着目し、社会の変化やシステムにおける綻び、隠されたり葬り去られた過去や歴史があることを敏感に察知して作品化してきたアーティスト45名/組を取り上げる。そのうち9名は本展のために新作を発表する。

[日程] 3月18日～6月18日
[会場] 広島市現代美術館

●香川県高松市

高松市美術館
〒760-0027 高松市紺屋町10-4
Tel. 087-823-1711 橋美貴
<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/museum/takamatsu/index.html>

高松市美術館コレクション+ (プラス) 版画でたどる20世紀 西洋美術—画家たちの挑戦—

高松市美術館が所蔵する版画作品を中心に、ピカソやマティスなどの巨匠たちから現代アーティストとして知られるジュリアン・オピーやダミアン・ハーストまで、20世紀に活躍した芸術家たちによる作品約200点を展示。さまざまな絵画表現が誕生し、版画技術も向上した20世紀において、画家たちが新たな表現に挑戦し

続けた軌跡をたどる。

[日程] 2月11日～3月21日

[会場] 高松市美術館

●香川県観音寺市



ハイスタッフホール(観音寺市民会館)

〒768-0060 観音寺市観音寺町甲1186-2

Tel. 0875-23-3939 香川敬恵

<https://www.kanon-kaikan.jp/>

観音寺こどもミュージカル

『姫浜で見つけた魔法使い』

2017年の開館記念事業として開催して以来、地元を題材にしたオリジナル作品を毎年上演している市民ミュージカル事業。19年に小中学生を中心に発足した「観音寺こどもミュージカル劇団TOTE・TON」が出演している。5回目となる今回は、脚本原案を市民に公募。『オズの魔法使い』をモチーフに観音寺の豊かな自然を描いた作品を、俳優で大阪芸術大学教授の浜畑賢吉の脚本・演出により上演する。

[日程] 3月19日

[会場] ハイスタッフホール(観音寺市民会館)大ホール

●高知県香美市

香美市立美術館

〒782-0041 香美市土佐山田町262-1 プラザハ王子2F

Tel. 0887-53-5110 小松サヤ

<https://www.city.kami.lg.jp/site/bijutukan/>

アーティストブック展

香美市に新図書館が開設されたことを記念して、美術の観点から本づくりの面白さや多様性を示す展覧会。美術作品の中には、さまざまな本の形の作品があり、一枚の絵では語りつくせない深い内容が積み重なり、作品としての本が制作されている。高知に縁のアーティスト39名によるさまざまな作品により、本という形態の可能性を探る。

[日程] 2月4日～3月19日

[会場] 香美市立美術館

九州・沖縄

●福岡県筑後市

筑後市文化振興公社

〒833-0047 筑後市大字若菜1104

Tel. 0942-54-1200 久保田力

<https://www.sathankusu-chikugo.or.jp/>

こどもたちによるシェイクスピア

アプレイ『夏の夜に夢』

演劇的な活動を通して、日常における表現力やコミュニケーション能力を培うことを目的として1999年に開講し、24年目を迎える表現教育講座「こどものためのえんげきひろば」。小学2年生～高校生を対象にこれまで延べ800人を超える子どもたちが参加してきた。今回は、シェイクスピアの『夏の夜の夢』を原作に、5月から練習を重ねてきた19人の子どもたちが「愛」の物語へチャレンジする。

[日程] 3月26日

[会場] サザンクス筑後



こどものためのえんげきひろば発表会『朝を待つキミに』(2022年3月)

●熊本県小国町

坂本善三美術館

〒869-2502 阿蘇郡小国町黒淵2877

Tel. 0967-46-5732 山下弘子

<https://sakamotozenzo.com/>

小国の表現

坂本善三・宮崎静夫・末田龍介

坂本善三美術館は、小国町出身の画家・坂本善三の遺族から町へ寄贈された作品を展示するべく、明治時代の民家を移築し

開館した、日本で唯一の全館畳敷きの美術館。今回は善三と同じ小国出身の画家・宮崎静夫と彫刻家・末田龍介を取り上げる。2021年に亡くなった末田の作品が遺族から寄贈されたことから、3人の小国出身作家の作品がコレクションとして揃うことになり、初の小国出身作家による展覧会として企画された。

[日程] 2月18日～5月7日

[会場] 坂本善三美術館

●大分県大分市



ホルトホール大分みらい共同事業体

〒870-0839 大分市金池南

1-5-1

Tel. 097-576-8877 關理紗子

<http://back-end.horutohall-oita.jp/>

豊後FUNAIミュージカル

『キズナのメダイ』

ホルトホール開館を記念して結成された「豊後FUNAIミュージカル」は、2014年より毎年、大分の歴史や文化を題材としたオリジナルミュージカルを上演。大分発の「時代劇エンターテインメント」として確立され、大分県内から年齢も性別も経験も異なるキャストが出演している。今回は、2020年3月に上演した『キズナのメダイ』を再演。総勢68人のキャストにより大分の歴史や魅力を再認識することができる作品となっている。

[日程] 3月12日

[会場] J:COM ホルトホール大分



『キズナのメダイ』(2020年3月)

●宮崎県宮崎市

メディキット県民文化センター

〒880-8557 宮崎市船塚3-210

Tel. 0985-28-3208 林田古都里

<https://miyazaki-ac.jp/>

宮崎県立芸術劇場プロデュース 「新 かぼちゃといもがら物語」#7 「神舞の庭」

「新 かぼちゃといもがら物語」は、2016年度にスタートした宮崎の“今を生きる”人々を描く演劇創作シリーズ。第7弾となる今回は、2020年に立山ひろみ(宮崎県立芸術劇場演劇ディレクター)の演出により上演された新演出版の『神舞の庭』を、一部新キャストを迎えて再演する。脚本は数々の戯曲賞を受賞している劇作家の長田育恵が県内各地の取材を経て書き下したものだ。宮崎公演の翌週には東京公演(東京芸術劇場シアターウエスト)も開催。

[日程] 3月1日～5日

[会場] メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)

●鹿児島県湧水町

鹿児島県霧島アートの森

〒899-6201 始良郡湧水町木場6340-220

Tel. 0995-74-5945 中森祐介

<https://open-air-museum.org/>

アートラボ イカ画家 宮内裕賀展 「イカセカイ」

鹿児島ゆかりのアーティストに焦点を当てるシリーズ「アートラボ」。今回は、イカの美しさや美味しさに魅了されて以来、イカの絵を描き続ける「イカ画家」宮内裕賀を取り上げる。宮内は2021年に湧水町で、これまでで最も大きな作品を公開制作し、本展ではその作品も展示する。関連企画として、宮内と鹿児島城西高校調理科とのコラボによるイカカレーも同館カフェで提供する(数量限定)。

[日程] 2月22日～4月16日

[会場] 鹿児島県霧島アートの森

▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●さいたま市

市民会館おおみや(RaiBoC Hall)

〒330-0846 さいたま市大宮区
大門町2-118(大宮門街4～8F)
Tel. 048-641-6131

<https://saitama-culture.jp/raibochall/>

◎2022年4月1日オープン



2022年3月に閉館した市民会館おおみやが、JR大宮駅東口の新しい複合施設「大宮門街」の4～8階フロアに場所を移してリニューアルオープン。市が進める大宮駅周辺のまちづくり計画のひとつで、公共施設を集約・複合化して生み出された用地を連鎖的にまちづくりに活用していく。新会館の愛称は、大宮地区を象徴する鉄道(Railway)・盆栽(Bonsai)・漫画(Cartoon)から「RaiBoC Hall」と名付けられた。施設面積は旧会館の倍以上で、これまではなかった展示室や、スタジオ、レクリエーションルームなど多彩な施設が整備され、市民のさまざまな文化活動に対応している。

今後は、市の文化芸術の発信拠点として、また音の響きが良いホールを活かしてクラシック音楽等の事業も行っていく予定。

[オープニング事業]新日本フィルハーモニー交響楽団RaiBoC Hall オープニング記念コンサート

[施設概要]大ホール(1,400席)、小ホール(最大340席)、集会室10室、リハーサルルーム、レクリエーションルーム、スタジオ6室、和室、展示室

[設置者]さいたま市

[管理・運営者](公財)さいたま市文化振興事業団

[設計者](株)山下設計

●神奈川県平塚市

ひらしん平塚文化芸術ホール

〒254-0045 平塚市見附町16-1
Tel. 0463-79-9907

<https://hiratsuka.hall-info.jp/>

◎2022年3月26日オープン



JR平塚駅西口の見附台周辺地区整備・管理運営事業の一環として、文化芸術の創造や賑わいの創出拠点として開館。

1,200席の大ホールはプロセニウム形式で、オーケストラピットや可動式音響反射板を備える。多目的ホールは、平土間利用の場合200名を収容することができる。他にも工芸や絵画等の利用に適した文化芸術支援室やキッズルーム等も備えている。

隣接する見附台公園と一体的な利用ができるほか、ゆっくり過ごせるオープンスペースが豊富で、イベントがないときも多くの利用者で賑わっていることも特徴である。

誰もが気軽に、多くの文化芸術活動に触れられ(体験する)、その体験・活動をきっかけに文化芸術活動を担う人々がより一層習熟し(きわめる)、人々の交流を通じて文化芸術の力でまちの活性化を促す(交流する、賑わう)施設として期待される。

[オープニング事業]記念式典・公演、オープニングウィーク

[施設概要]大ホール(1,200席)、多目的ホール(251.10m²)、会議室3室、練習室3室、和室、文化芸術支援室、キッズルーム ほか

[設置者]平塚市

[管理・運営者]ひらつか文化パートナーズ

[設計者]清水建設・安井建築設計設計共同企業体

●沖縄県糸満市

糸満市観光文化交流拠点施設 シャボン玉石けん くくる糸満

〒901-0364 糸満市潮崎町
1-1-2(糸満市役所隣り)

Tel. 098-992-2500

<https://www.kukuru-itomancity.jp/>

◎2022年4月23日オープン



「誰もが訪れたいくなるまちづくり事業」を掲げ、歴史・文化の継承・交流促進・平和学習のための観光振興施設として整備。

施設は6つのエリアに分かれ、創造発信エリアには演劇や講演会等に対応した大ホールや多目的室、継承体験エリアには活動室や会議室を備える。また地域発信エリアでは、糸満市の多種多様な文化に加え、沖縄戦や平和、戦後復興の歩みを体験型の展示や映像シアターで紹介。ほかにも交流情報エリアや、屋外ステージを備えた屋外活動エリアなどを設けている。

今後は自主事業を積極的に展開しながら施設のPR活動を行うとともに、地域住民との交流やさまざまな伝統文化の体験などを通して、ガイドブックではわからない糸満の魅力を発信していく。

[オープニング事業]糸満市市制施行50周年記念及びくくる糸満開館記念式典 ほか

[施設概要]大ホール(最大582席)、多目的室(166.12m²)、企画展示室(81.09m²) ほか

[設置者]糸満市

[管理・運営者]くくる糸満共同事業体

[設計者](有)三和総合設計・(有)大幸設計事務所・屋プランニング設計共同企業体

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

大分県日田市 パトリア日田 オリジナル日田 ミュージック 「どんどん日田どん！」



写真提供：パトリア日田

●開館15周年記念公演 パトリア音楽工房 野村誠プロデュース オリジナル日田ミュージック「どんどん日田どん!」～林業・祇園囃子・相撲の神様大蔵永季をテーマにしたコンサート～

【会期】2023年1月29日

【主催・会場】日田市民文化会館「パトリア日田」

【演出・構成】野村誠

【出演】パトリア音楽工房メンバー、宇野健太(チェロ)、古賀美代子(ピアノ)、木レンジャー、日田祇園囃子保存会、日田少年少女合唱団、大山中学校吹奏楽部、松田哲博(相撲探求家/元・一ノ矢)、日田林工高等学校吹奏楽部、大山中学校相撲部、合原万貴(マルマタ林業株式会社)、河津和信

日田市民文化会館パトリア日田(以下、パトリア)で開館15周年記念公演「どんどん日田どん!」が開催された。サブタイトルに「林業・祇園囃子・相撲の神様大蔵永季をテーマにしたコンサート」とあるように、平安時代の豪族で相撲の名手だった「日田どん」こと大蔵永季などがモチーフになっている。

プロデュースしたのは、ワークショップ(WS)で自在に音楽をつくり出す音楽家の野村誠だ。日田どんの生涯を描いた紙芝居の映像をホールの背景に映しながら、年齢も音楽経験もバラバラな市民9人が参加する「パトリア音楽工房」と共に創作した16曲などを、吹奏楽部、少年少女合唱団、日田祇園囃子保存会、音楽家などが演奏。また、ご当地ヒーロー・木レンジャーや元力士の相撲探求家も登場。ラストにはまわし姿の中学校相撲部の少年たちが四股を踏み、相撲、お囃子、クラシック音楽、市民合奏が重なった奇跡のようなシーンを創出した。

日田は徳川幕府の直轄地である天領として栄え、豊かな土地柄から文化活動を行う市民も多い。パトリアは、そんな市民の拠点として2007年12月に開館。オープニングで立ち上げた市民ミュージカルなど、直営により創造事業に取り組んできた。14年から(株)ケイミックスパブリックビジネスが指定管理者となったが、市からの委託として創造事業を継続。今年度新たに挑戦したのがパトリア音楽工房だった。

そもそも、パトリア職員の黒田かやさん(現在は別のホールに異動)が、熊本県宇城市に移住した野村に声をかけたのが始まり。少人数の市民WSで日田のオリジナル曲を創作し、市内の団体や音楽家と共にそれを演奏するのならばどうか——。21年10月にはプレWSを企画するとともに、野村と日田のリサーチを行った。

主幹産業である林業を担う高村木材、マルマタ林業を訪ね、木レンジャーと出会い、木の楽器の可能性を見出した。また、22年5月には、大蔵永季を祀っている日田神社にお参りし、日田どんの紙芝居と出会った。

黒田さんが異動してからは、Uターンして地元に戻り、事業担当を経て館長になった及川康江さんが野村の要望を踏まえて出演団体と交渉した。コロナ禍で団員数も発表会も減った合唱団や吹奏楽部などに声をかけ、日田祇園囃子保存会にも打診し、「曲調を変えない」を条件に了解を得た。

一方、音楽工房では、9月から月1回程度のWSを開始。紙芝居から着想した音や言葉遊びの中で次々に曲が生まれていった。11月中には合唱曲4曲、吹奏楽曲4曲が完成し、それぞれが練習に入った。日田生まれで九州が拠点のチェリスト・宇野健太さんとピアニスト・古賀美代子さんには12月に譜面が渡された。

事業担当を引き継いだ川端都古さんは、「コロナ禍もあって本番前日の通し稽古まで全員が集まることなく個別に練習しました。野村さん以外の全員、全貌がわからず不安でした」と言う。

極め付けは、野村からの「相撲部を出したい」というオーダーだった。日田は相撲が盛んな土地柄なのだからどうしても地元の人に参加してもらいたい——。試合が近いなど調整が難航する中、パトリアの音楽事業に参加していた学生が相撲部だったことを思い出す。「困っているなら助けよう」という監督の一言で出演が決定した。

「音楽工房に参加し、今回の語り部をした井上呼春さんも、舞台裏を回していたスタッフも市民ミュージカルで育った人たちです。宇野さんと古賀さんは少年少女合唱団の出身。途中から運営は指定管理者に変わりましたが、ほとんどが地元採用で直営時代からのメンバーもいます。この9年で何かわからないままでも『やろう!』という人たちがパトリアの周りに育っていたことを実感しました」と及川さん。

地域芸能と西洋音楽、大人と子ども、プロと素人、市民とホール職員、あらゆるボーダーが消え、バラバラなものが音楽で調和した夢のような時間だった。音楽家・野村誠と、地域と繋がった公立ホールの底力を見たように思った。

(アートジャーナリスト・山下里加)